

考察

- ▶ 第三に、専門管理を特徴とする地区のように高い階層の地区では、親しい友人が地域内にかぎられるほど生活保護費削減を支持。大阪市のセグリゲーションの傾向のなかでは、高い階層が集中する地区に住み、そこで親しい友人関係が地域内の「内輪 entre-soi」にとどまるほど、貧困対策に否定的となる近隣効果が働いていると考えられる。
- ▶ 第四に、貧困の自己責任論は生活保護費削減の支持傾向に独立した強い効果をもっており、それは貧困観のあり方によって貧困対策の支持傾向がどのような方向に向かうのかが規定されていることを示している。

考察

- ▶ 本稿の分析は2011年秋に行なった調査データをもとにしているが、最初に指摘したように、生活保護に関してはその後、メディアや政治家が盛んにネガティブなキャンペーンを行なってきた。
- ▶ メディアに操作されやすい貧困知覚がその影響を受け、現在ではさらに変化していることも考えられる。
- ▶ しかしながら、もしそうだとすれば、それはまさにメディアが貧困知覚に影響をもたらした結果でもあり、その知覚形成をもとに生活保護制度の改革が進められようとしているとも言えるだろう。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
川野英二	困窮地区の社会空間—大阪市の都市社会問題の分析	大阪市立大学・釜山大学第二回学術会議	都市移住民と空間変形	大阪市立大学・釜山大学第二回学術会議	大阪市	2012年	45-58

報告書

著者氏名	報告書タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
福原宏幸	大阪における2つの健康格差調査—同和地区調査と大阪市民調査—	大阪市立大学大学院経済学研究科・文学研究科	国際ワークショップ「健康格差と都市の社会経済構造—歴史と現在から探る—」報告書	大阪市立大学大学院経済学研究科・文学研究科	大阪市	2013年	
川野英二	大阪市民の貧困観と近隣効果	大阪市立大学大学院経済学研究科・文学研究科	国際ワークショップ「健康格差と都市の社会経済構造—歴史と現在から探る—」報告書	大阪市立大学大学院経済学研究科・文学研究科	大阪市	2013年	
田淵貴大	居住地に由来する差別は、メンタルヘルスの社会的決定要因である	大阪市立大学大学院経済学研究科・文学研究科	国際ワークショップ「健康格差と都市の社会経済構造—歴史と現在から探る—」報告書	大阪市立大学大学院経済学研究科・文学研究科	大阪市	2013年	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
福原宏幸・田淵貴大・若松司・四井恵介	西成区北西部健康実態調査結果〈ダイジェスト版〉「つながりづくりで健康づくり—まちづくりへの参加が健康づくりの第一歩—」	西成区北西部まちづくり委員会		30ページ	2012年
Takahiro Tabuchi, Hiroyuki Fukuhara, Hiroyasu Iso	Geographically-based discrimination is a social determinant of mental health in a deprived and stigmatized area in Japan: a cross-sectional study	Social Science & Medicine	Volume 75 Issue 6	Pages 1015-1021	2012年
田淵貴大, 中山富雄, 津熊秀明	日本におけるがん検診受診率格差～医療保険のインパクト～	日本医事新報	4605	84-8	2012年
川野英二	大阪市民の貧困観と近隣効果—貧困層は対立しているのか?	貧困研究	9号	18-29	2012年
赤枝尚樹	都市における非通念性の複合的生成過程—下位文化理論とコミュニティ解放論の観点から	ソシオロジ	56(3)	69-85	2012年

